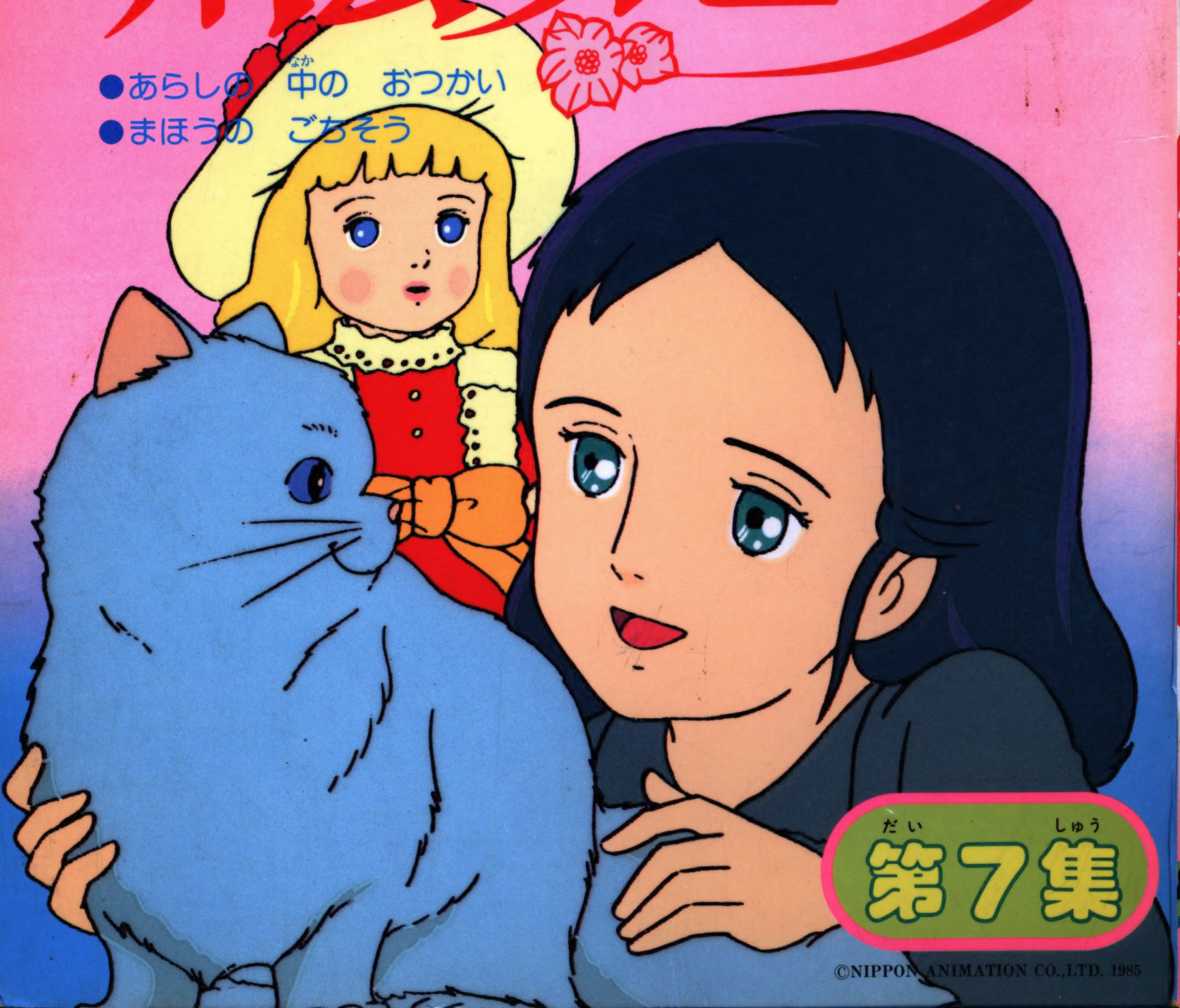
小学館のテレビ名作

定価330円

小公女セーラ

●あらしの　中の　おつかい
●まほうの　ごちそう



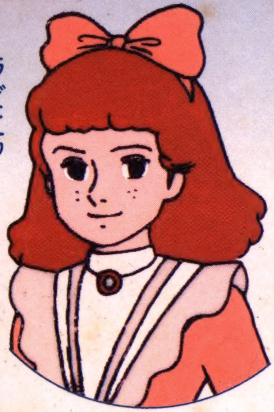
第7集

小学館のテレビ名作　小公女セーラ　⑦

第7集

この お話に 出て くる 人たち

（原作）フランシス・バーネット



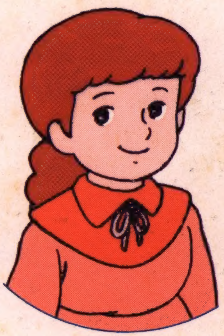
●おうちの方へ●

このお話の原作『小公女』は、1888年にイギリスのフランシス・バーネットによって書かれたものです。──インドで生まれたセーラはロンドンの寄宿学校で楽しい生活をしていましたが、お父さんの突然の死で、メイドになり、学校で働いています。隣に引っ越してきたクリスフォードさんが、やさしくセーラを見守っていてくれます。













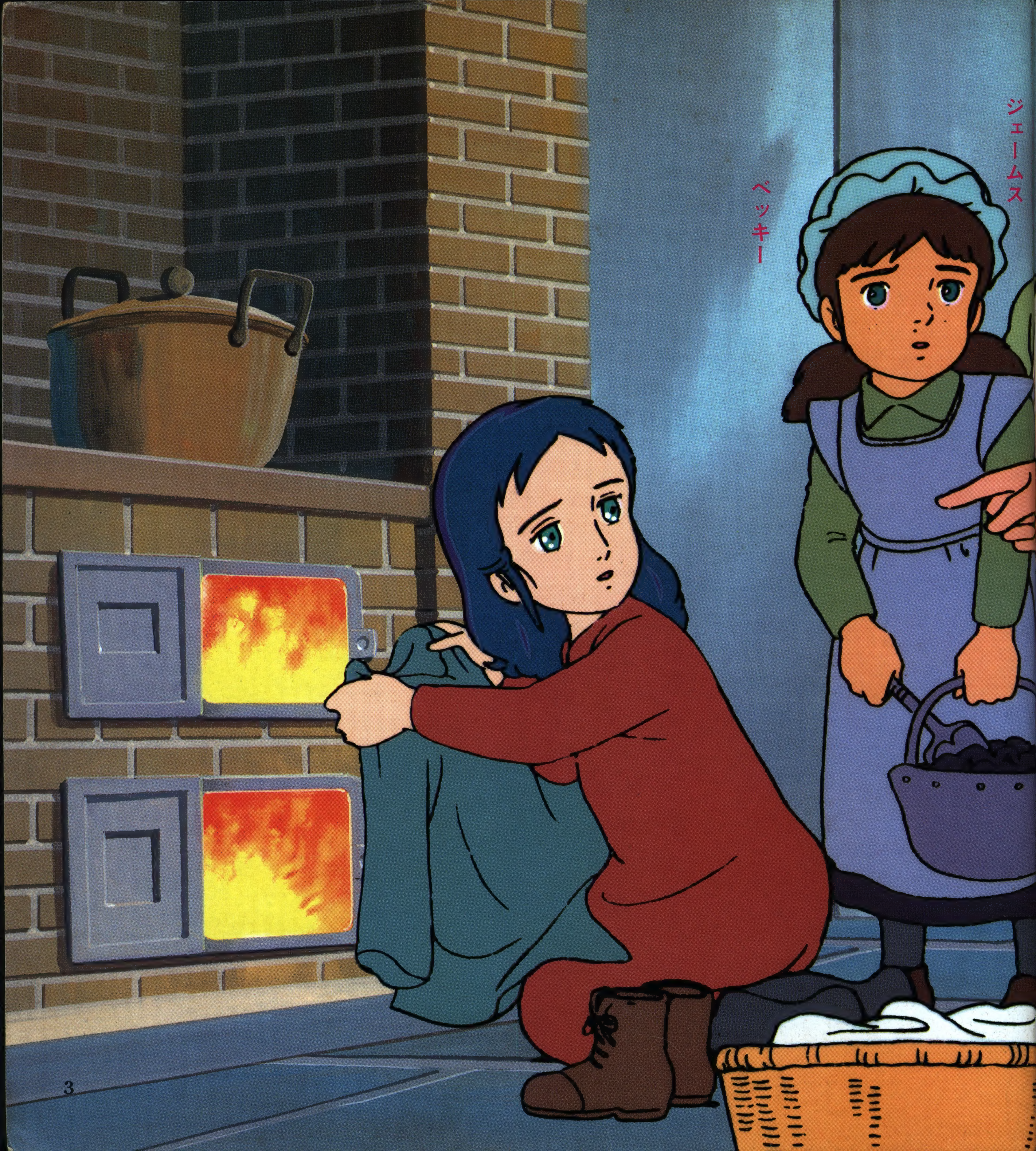
「あらしの 中(なか)の おつかい」

あらしの
夜(よる)、セーラの
へやの　まど
から　雨(あめ)が　入(はい)り、
ようふくが　ぬれて
しまいました。





セーラが、台どころで
ぬれた　ふくを　かわかして
いると、モーリーが　おきて
きて　いいました。
「ぬれた　ふくは　きて
いれば　かわくよ。もたもた
して　いないで、さっさと
生とさんたちの　へやへ
石たんを　おはこび。」
「はい、モーリーさん。」
セーラは　ふるえながら
ふくを　きました。


ジェームス
ベッキー

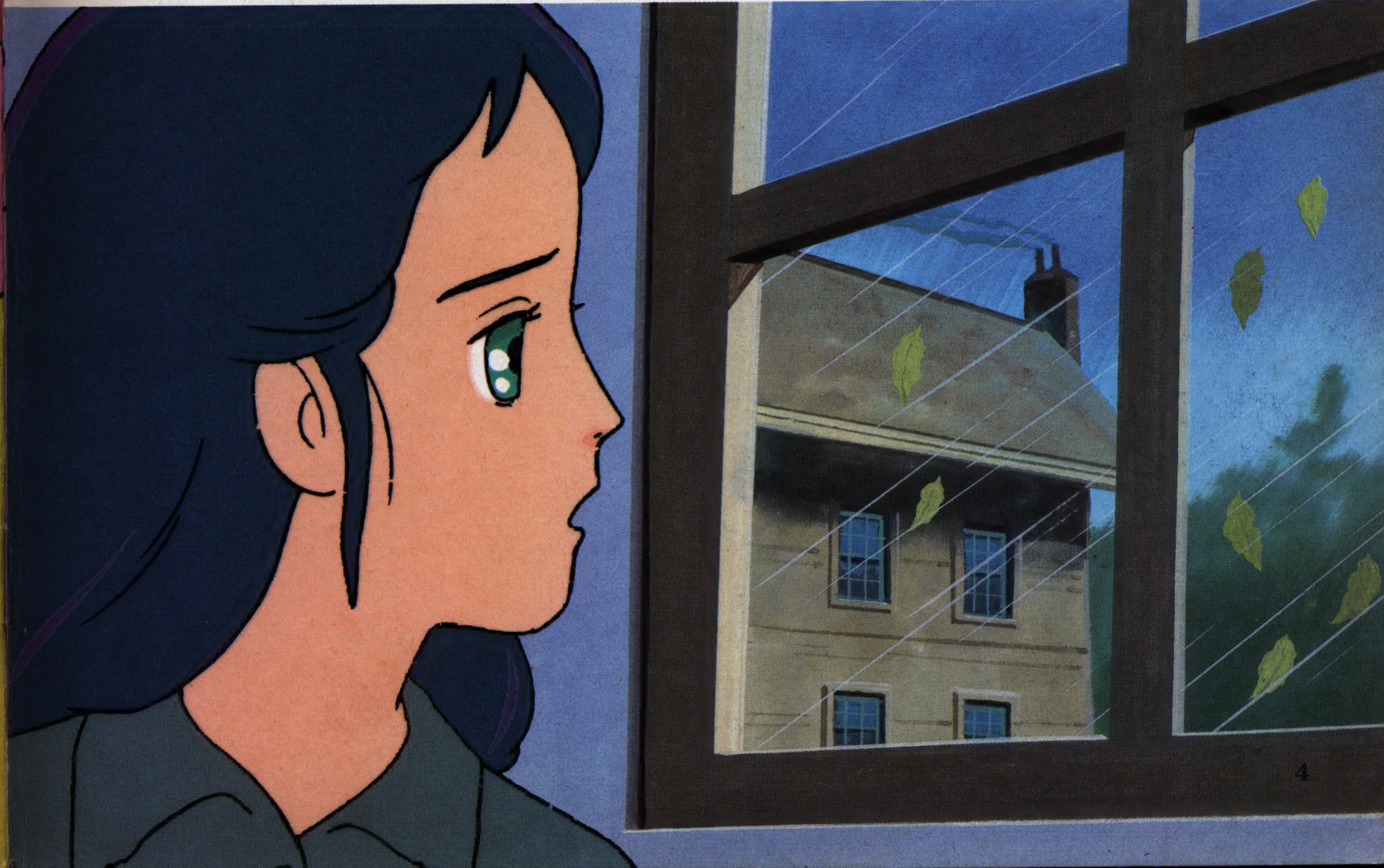
まどの　外は、まだ　つめたい　雨が　ふりつづいて　います。

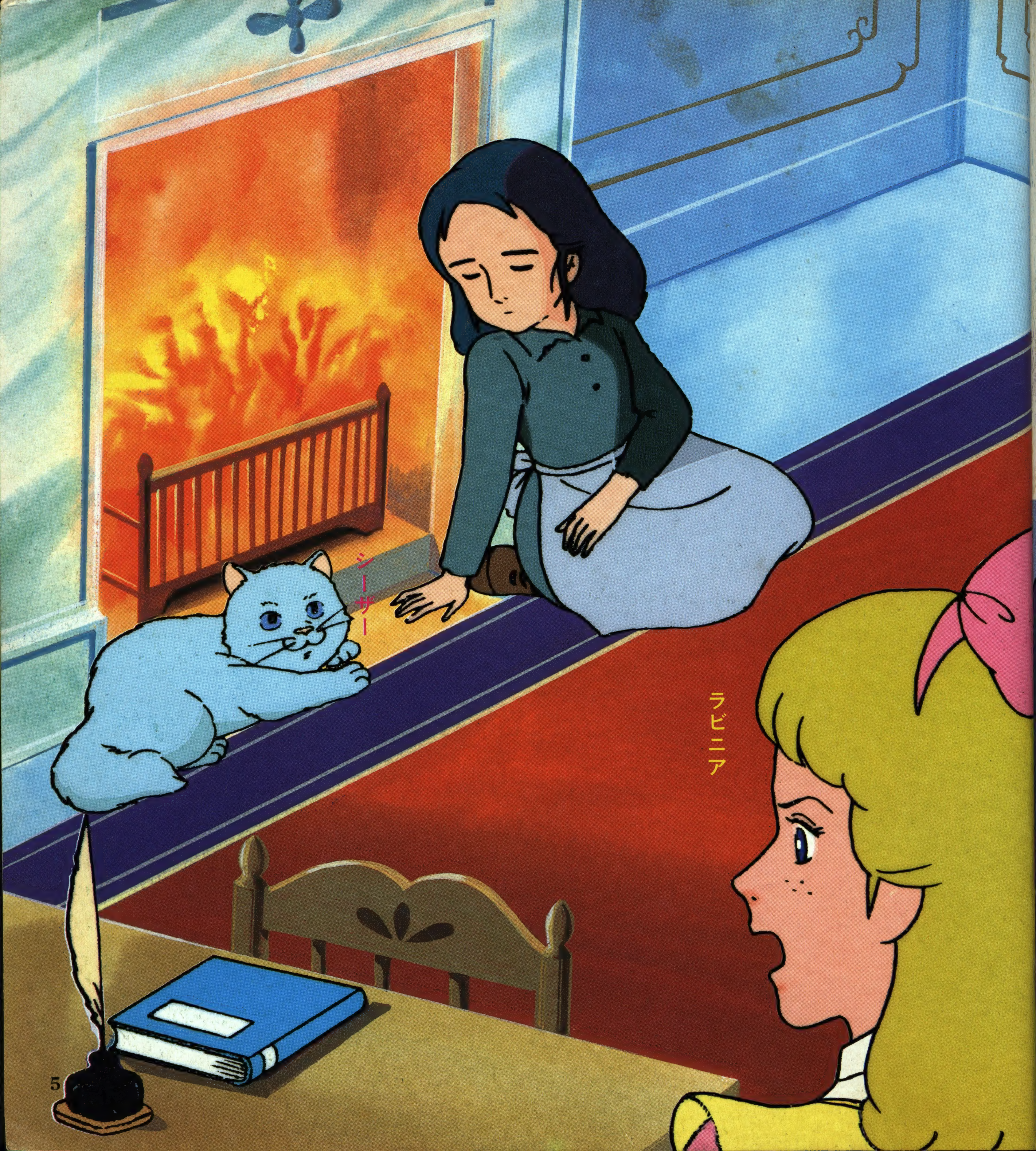
セーラは、ラビニアの　へやへ　来ると、だんろに　石たんを　くべました。石たんは　まっ赤に　もえだしました。

「ああ、あたたかいわ。」

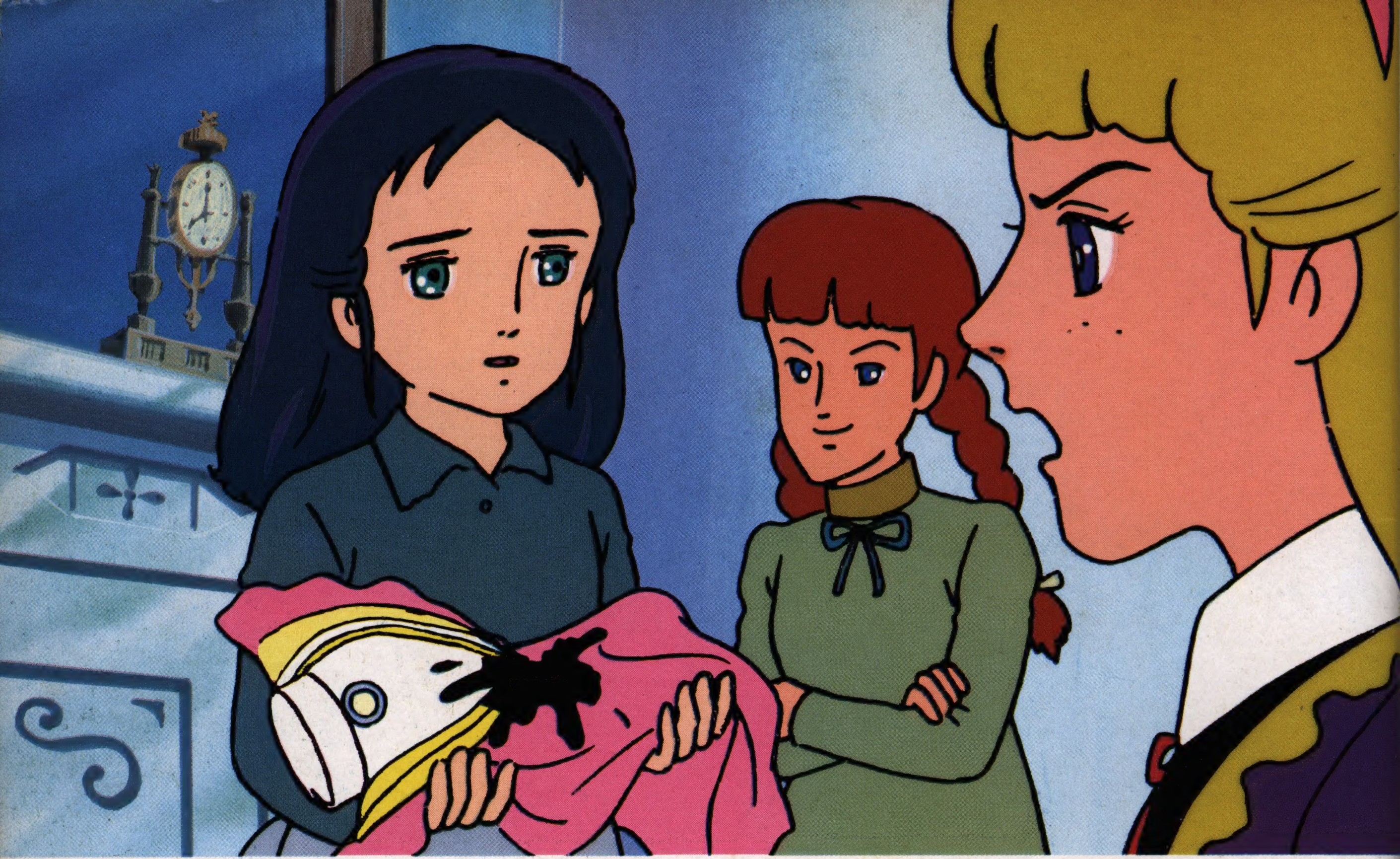
セーラは　だんろに　もたれて、つい　うとうとしました。

　そこへ、ラビニアが　おきて　きたのです。

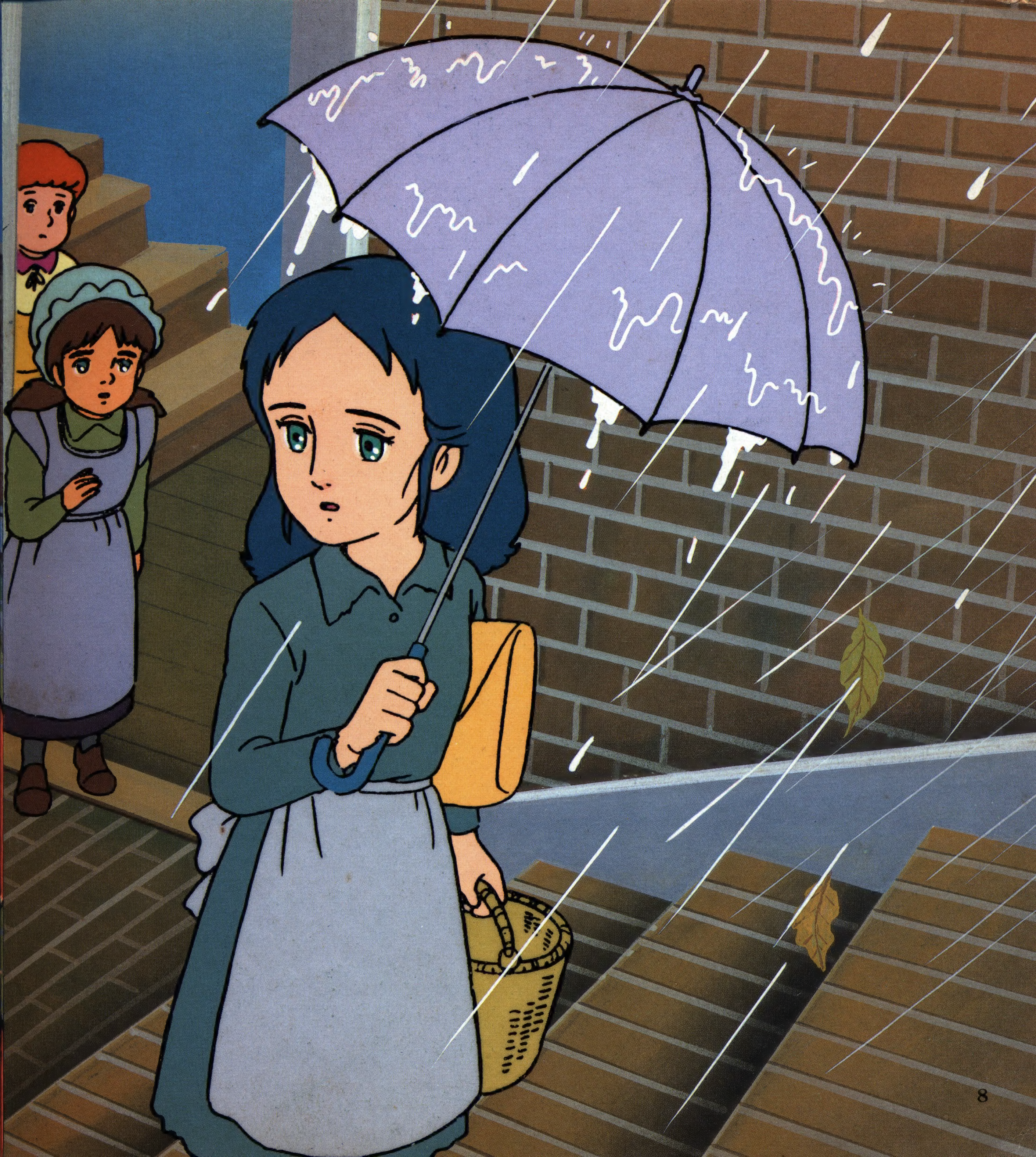



シーザー
ラビニア





「セーラ、おきなさい。」
ラビニアは、つかつかと　近(ちか)づいて　セーラをけとばしました。
それに　おどろいたねこの　シーザーが、つくえに　とびのって、インクの　びんを　たおして　しまったのです。
インクは、ラビニアのふくに　かかりました。ラビニアは　ふくをぬぐと、セーラに　たたきつけました。



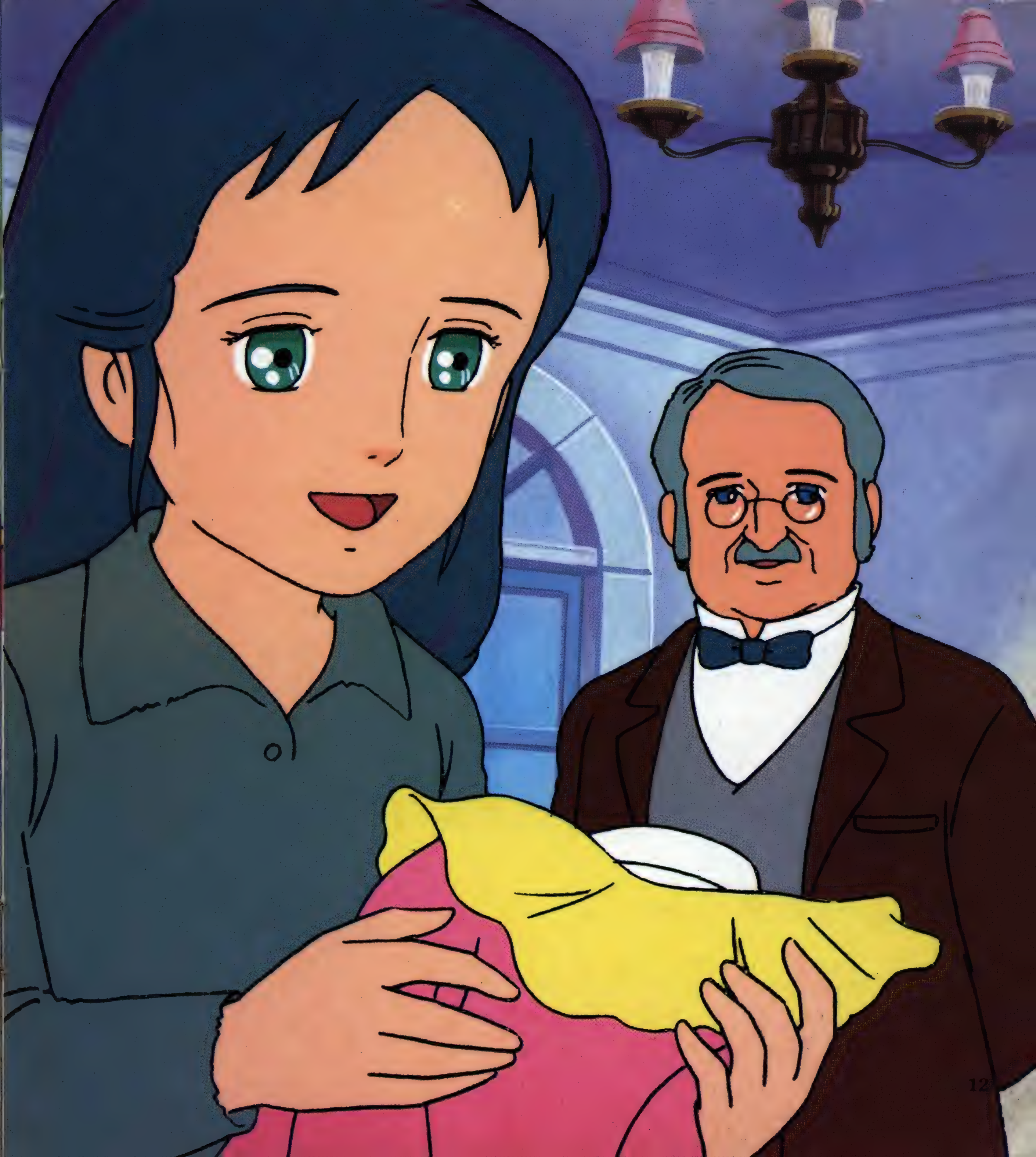
「セーラ、その　ふくは
フランスの　パリで　買った
とても　高い　ふくよ。イン
クの　しみが　ついたのは、
あなたが　いねむりを　して
いたからよ。もとどおりに
しないと、ミンチン先生に
いいつけて　やるわ。」
ラビニアが、いじわるく
いうので、セーラは、しかた
なく　せんたくやさんへ
出かけました。



ところが、せんたくや
さんは　休みです。
「どう　しよう。」
セーラが　こまって
いると、人形の　エミリ
ーを　買った　お店の
前に　きました。
セーラは、おずおずと
お店に　入りました。
「おや　おじょうさん、
エミリーは　その　後
元気ですか。」
お店の　しゅ人は、
セーラを　おぼえて
いたのです。




お父さん
エミリー



お店のしゅ人は、セーラのすがたがすっかりかわっているのでおどろきました。でもだまって、セーラがおねがいしたしみを、一生けんめいおとしてくれました。
「ほら、もとどおりになりましたよ。それから、お金はいりませんよ。」
「どうもありがとう。」
セーラは、むねがあつくなりました。





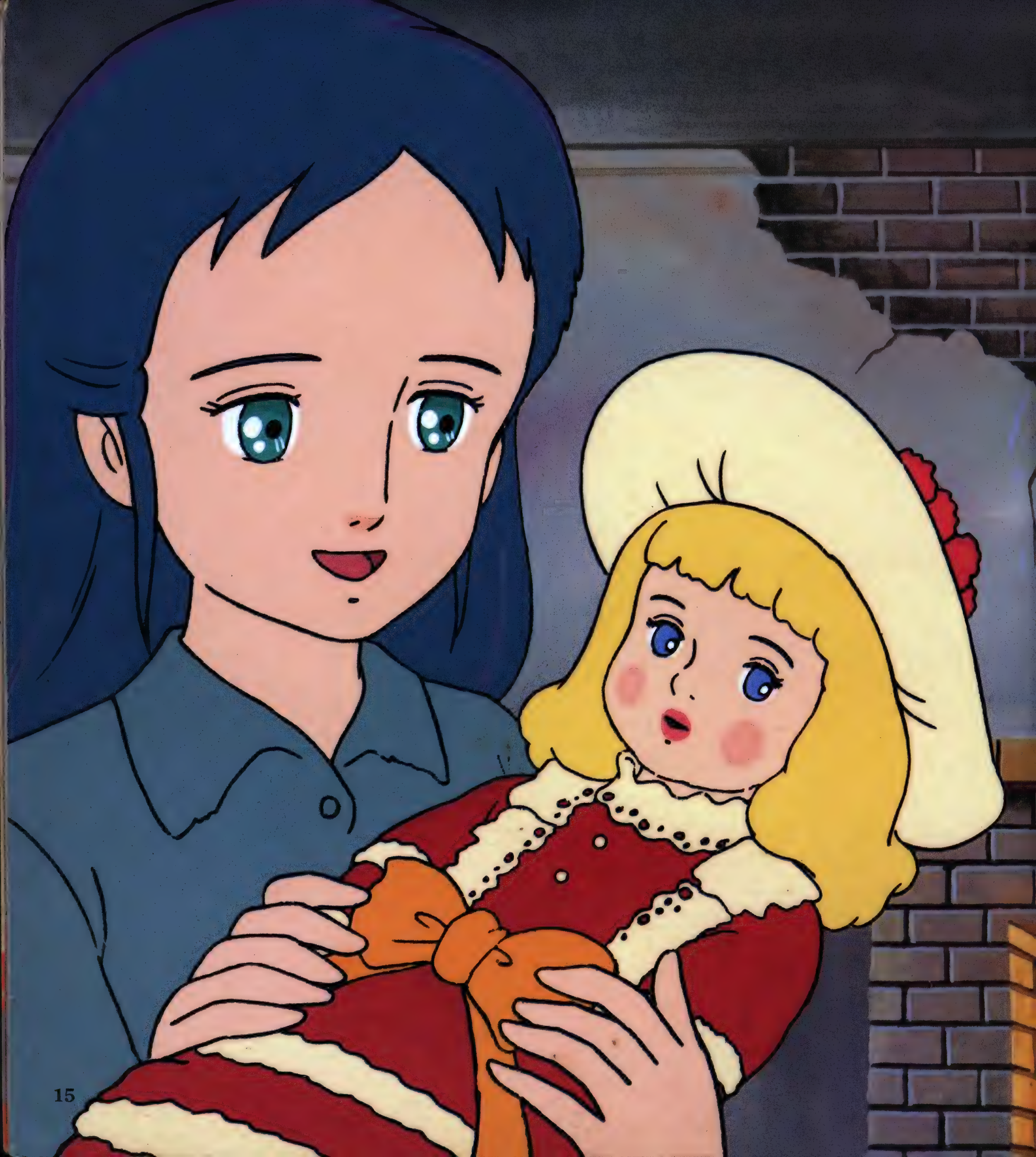
ラビニアは、ふくが もとどおりに なったので、セーラを ゆるす ことに しました。

「ああ よかった。」

心ぱいして いた ベッキーも、ほっと しました。

「エミリー、ありがとう。あなたの おかげよ。」

セーラは、エミリーを しっかりと だきしめて おれいを いいました。



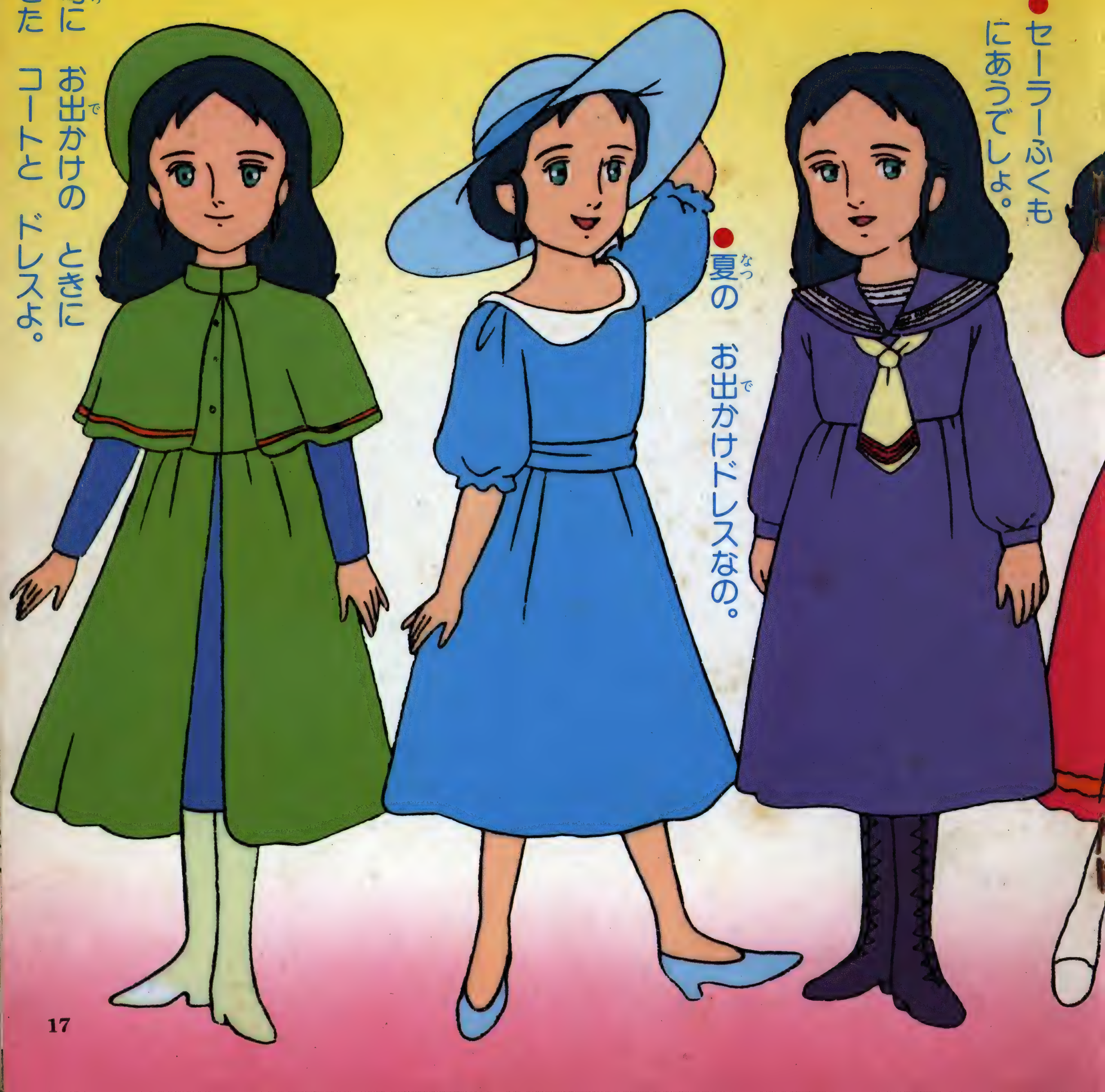
セーラの すてきな ファッション

●わたしの お気に入りの ドレスよ。

●インドから 来た とき、きて きた コートなの。

●パーティーの ときに きた ドレスよ。





●セーラーふくも にあうでしょ。

●夏の お出かけドレスなの。

●町に お出かけの ときに きた コートと ドレスよ。



「まほうの　ごちそう」

雨に　ぬれた　セーラは、台どころで　たおれました。
「ああ、くるしい。」
「ふん、びょう気の　ふりを　して、しごとを　さぼろうと　しても　ゆるさないよ。」
モーリーは　いやみを　いいましたが、セーラが　ほんとうに　くるしそうなので、あわてて　ミンチン先生に　知らせました。


ジェームス
モーリー
ベッキー


ミンチン先生



ミンチン先生は、ベッキーに　セーラを　へやへ　はこばせて　いいました。

「この　くらいの　ねつなら、しずかに　ねて　いれば　すぐに　なおります。」

　お金が　かかるので、ミンチン先生は　おいしゃさんを　よんで　くれません。

「ベッキー、ぐずぐずして　いないで、早く　台どころで　はたらきなさい。」

でも、セーラの　ねつは、つぎの　日に　なっても　下がりません。
「ふふふ、もう　すぐ、セーラは　しぬわ。」
ラビニアが　ロッティに　いいました。
「うええん、セーラが　しんじゃうよ。」
「だいじょうぶよ。わたしに　まかせて。」
なかよしの　アーメンガードの　おばさんは、やく草を　さいばいして　いるのです。




アーメンガード
※やく草
くすりに する 草
（アーメンガードの）
おばさん


ピーター

「よし、ぼくが　とりに
行って　くるよ。」
なかよしの　ピーターが、
くすりを　とりに　馬車を
走らせました。
「まあ、それは　大へん。」

おばさんは、さっそく
やく草で　作った　くすりを
びんに、入れて。くれました。
「これは　とても　にがいけ
れど、ねつには　よく　きく
わ。いそいで　とどけてね。」





「がんばって　のんで。」
ベッキーは、セーラに
くすりを　のませました。
　やがて　くすりの
おかげで、セーラは
すやすやと　ねむりだし
ました。
「おばさんの　やく草（そう）の
くすりが　きいて　きた
みたいね。」
　アーメンガードと
ベッキーは、ほっと
して　へやへ　かえりま
した。





その ようすを、まどの 外から となりの ラムダスが 見て いました。

ラムダスは、セーラの すがたが、まどから 見えないので 心ぱいだったのです。ラムダスは ごしゅ人の クリスフォードさんに わけを 話しました。

「そうか、食じも して いないのなら、ねつが 下がっても はたらけないだろう。かわいそうに。」


クリスフォードさん
スーリヤ

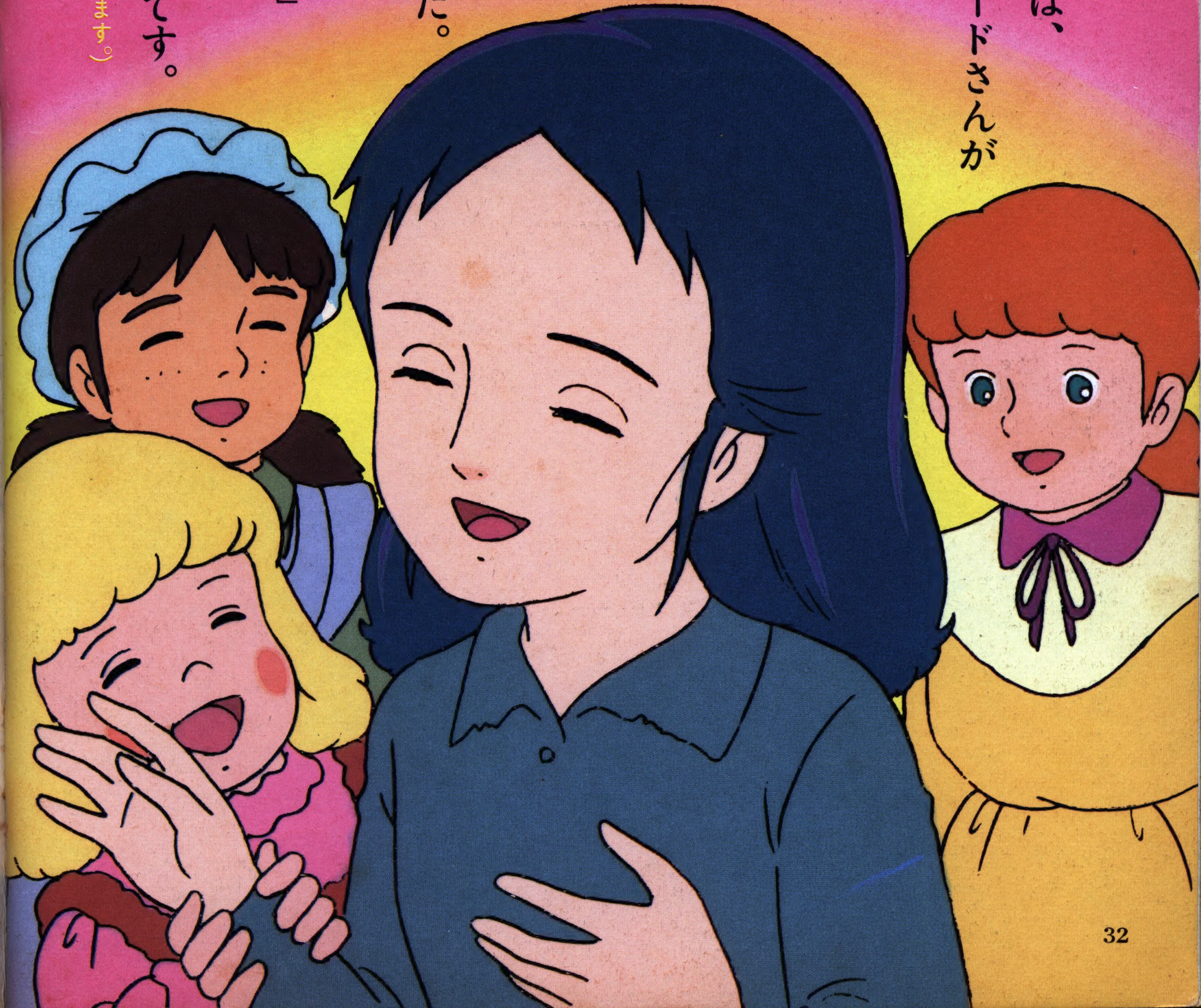
つぎの　日の　朝、セーラ
は、とても　いい　においで
目を　さましました。
「まあ、ゆめを　見て　いる
のかしら。」
へやの　だんろが　まっ赤
に　もえて　いて、テーブル
には　ごちそうが　ずらりと
ならんで　いたのです。
「きっと　まほうだわ。」
まほうの　ごちそうは、
つぎの　日も　あらわれました。





ごちそうは、
クリスフォードさんが
心ぱいして、
ラムダスに
とどけさせ
たのです。
　おかげで
セーラの
びょう気は
なおりました。
「わあい、
よかったわ。」
　みんなは、
大よろこびです。

（第8集に　つづきます。）





小公女セーラの

絵本をお読みください。

やさしい クリスフォードさんの おかげで
セーラが 元気に なって、よかったですね。

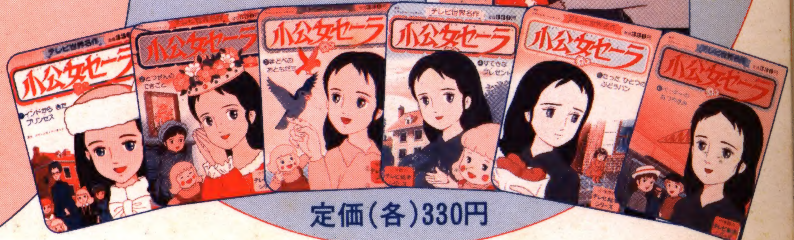
小学館のテレビ絵本シリーズ

①インドから きた プリンセス
②とつぜんの できごと
③まどべの おともだち
④すてきな プレゼント
⑤たった ひとつの ぶどうパン
⑥ベッキーの なつやすみ
⑦かわいい おともだち
⑧ゆめのような プレゼント
（以下続刊）

好評発売中

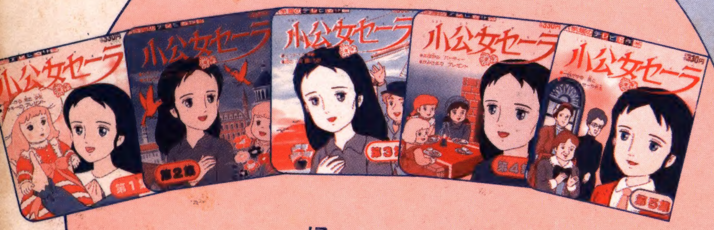


あなたの おとうとさん いもうとさんに どうぞ!!



定価(各)330円

小学館のテレビ名作





今までの セーラの お話が わかりますよ。続けて 読んでね。

●第1集・第2集
第3集・第4集
第5集・第6集
（以下続刊）

好評発売中!!

定価(各)330円

造本にはじゅうぶん注意しておりますが、万一、落丁、乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

〒101 東京都千代田区一ツ橋2—3—1

電話（編集）03-230-5427
（業務）03-230-5333
（販売）03-230-5748

●小学館のテレビ名作●

小公女 セーラ⑦

昭和60年10月20日／第1刷発行

ISBN4-09-110517-3

編集兼発行者／相賀徹夫
発行所／小学館
〒101 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
印刷所／共同印刷株式会社

小学館のテレビ名作

小公女セーラ

第7集



雑誌コード64305-87

ISBN4-09-110517-3 C8771 ¥330E

定価330円

Printed in Japan